



ひろしま・おかやま  
若者サポートネットワーク  
活動報告書



2023

# 目次



## 1 はじめに

---

## 2 ひろしま・おかやま 若者サポートネットワークとは

---

## 3 若者が直面している社会課題についての 認知を拡げる活動

---

## 4 ひろしま・おかやま若者おうえん基金の 取り組み

---

## 5 若者を支援する団体の取り組みサポート

---

## 6 おわりに

---

# はじめに

## ひろしま・おかやま 若者サポートネットワーク 設立にあたって

事務局となる「NPO法人どりいむスイッチ」は、「社会参加に困難をかかえる若者とその家族が、主体的に幸せに生きていくことに貢献するため、専門性をもって関わり、社会へのかけ橋となる。」というミッションのもと、2012年より社会参加に困難を抱える若者の居場所づくりを展開し、地域で暮らす若者のサポートを行ってきました。

活動を続ける中で、「生活困窮」「家庭不和」など苦しい状況に置かれている若者や、「離転職」「他者とのコミュニケーション不全」などの辛さを抱えている若者に、私たちは数多く出会ってきました。そんな彼らが抱える課題は多岐に渡ることが多く、縦割りの支援ではうまく対応できないことがあります。制度の狭間というエアポケットに、はまり込む場面にも直面してきました。

またSNSが台頭し、実社会での関係が希薄になる中、いざという時に頼れる人が身近にいないということも、現代の若者の多くが抱えている共通の状態ではないでしょうか。若者からのSOSは、つぶやきとして流れ、行政や関係機関に届きにくい。結果、必要なサポートが受けられていない現状があります。

そこで、「若者と出会うであろう団体や個人が学びあえるネットワークを作り、地域全体で若者に対する理解を深め、支援を届けたい」という思いから、休眠預金事業の助成を受け、本ネットワーク事業を立ち上げました。

「頼れる相手がない…」  
「どこに相談すればよいんだろう…」  
「誰かと話せる場が欲しいな」



そんな思いを持ちながら懸命に生きている若者と、一緒に笑い、励まし、支えあえる地域を目指して、活動を続けてまいります。

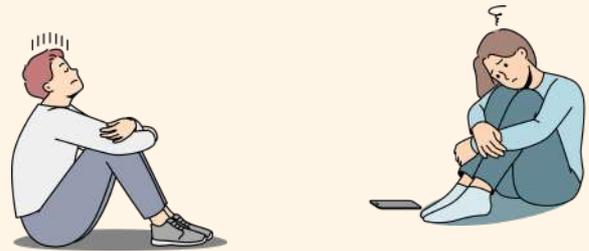
ひろしま・おかやま若者サポートネットワーク  
(事務局：NPO法人 どりいむスイッチ)



# ひろしま・おかやま 若者サポートネットワークとは

## この地域の「若者」を取り巻く社会課題

- 若者に対する、地域で支える基盤づくりや行政の取り組みは不十分
- 「ひきこもり」「虐待」「非行」など、目に見える形ではない課題を抱えている若者はより適切な支援を受けにくい状況にある。
- 社会的養護を巣立った若者などは、親を頼ることが出来ないことも多い。また虐待などの影響もあり大人を頼ることに難しさを抱えていることもあるため、支援につながりにくい。
- 支援団体は都市部に集まりやすく、地方部との支援格差が存在する。更に広島県・岡山県の中でも、同じように地域による支援格差が存在する。



## 「若者」を支援する上で感じる課題

- 遠方の場合、食料支援やLINEで繋がりを作れたとしても、会える頻度が少ないため困る前から相談できる継続的な関係性を作ることが難しい。
- 遠方支援の場合には各地域の支援機関や支援団体と連携した支援を行う必要があるが若者支援を実施している団体との繋がりがないため、体制を築けない。
- 虐待経験などがあっても支援を受けた経験のない若者も多く、自分が支援の対象であることを知らない場合がある。知っていたとしても、「支援」は見下される立場に置かれるようで、受けたくないと思っていることもある。その結果、支援対象者が一部に限られてしまう。

「若者支援団体同士が、若者支援についての  
社会資源・課題・取組みを情報を共有し  
まなび合えるネットワークづくり」を目指した取り組み

## ネットワークで大切にしたいこと

### 困難を抱える若者を「ひとりにしない」こと

- ① 広範な地域においても、各エリアで若者に支援を届ける事ができる体制づくり
- ② 支援団体同士が、社会資源を共有しながら互いにサポートしあえる若者を支える緩やかなネットワーク作り



## ネットワークの取り組み

### ① 団体同士の繋がりづくり

広島県・岡山県で、若者をサポートする取り組みを行っている団体とネットワークを形成。対象となる若者を取り巻く諸問題についての勉強会や団体同士の情報交換会などを通して、小さなSOSをキャッチできる力を育み、複数の団体でサポートしあえる関係性をつくる。

### ② 団体を支援する基金の創設

「ひろしま・おかやま若者応援基金」を設立。広島県と岡山県で若者をサポートしている団体に活動資金を助成する。(1団体10～20万円助成/10団体程度)

### ③ 実態調査

ネットワーク活動の趣旨に賛同する若者支援団体を通して、広島県・岡山県の若者の声をヒアリング調査し、若者支援におけるニーズや、持続的に支援を届けられる仕組みを検討する。

# 若者が直面している 社会課題の認知を拡げる活動

## 「REAL VOICE」上映会

日時	令和5年9月17日(日)13:30~16:00
会場	イチセトウチ
ゲスト	山本 昌子さん (REALVOICE 監督) 山崎一馬さん (REAL VOICE出演者/広島県出身)
参加者数	60名 (内、アンケート回収:47名)

### 9月17日「REAL VOICE」当日の様子



イチセトウチにて、「REALVOICE上映会in福山」を開催しました。

### トークセッションの様子



監督の山本昌子さんと、映画出演者で広島出身の山崎一馬さんにお越しいただき、フロアからの質問などを中心に映画に対する思いをお話いただきました。

### 山本さんからのメッセージ

自分の近くの人に手を差し伸べるだけでも、それを皆がやっていけば大勢の救われる人がいるはず！

まだ見ぬ多くの若者ではなく、目の前の顔が見える若者との関わりの一つひとつが拡がって、たくさんの若者をサポートする事につながる、という大切なことを振り返る機会となりました。

### 上映会の様子



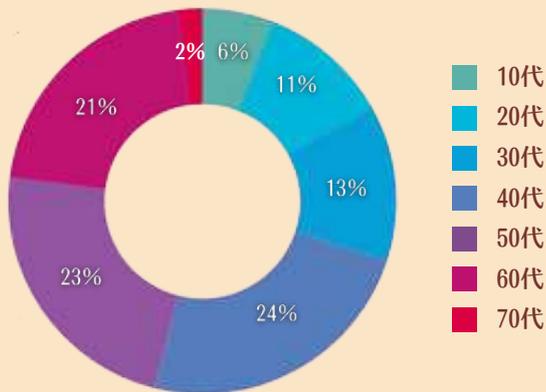
### —「虐待は、大人になって終わりじゃない」—

成人してからも過去の経験と向き合いながら進もうとしている出演者の生き方に、「我々は何ができるか」を考えさせられました。また、全国で取材した一人ひとりの当事者の声は、過去への反発などだけでなく、未来への希望を思う前向きな意見も多く、困難な状況を乗り越えてなお、生きようとするその力強いメッセージに心打たれました。

# 「REAL VOICE」 上映アンケートより

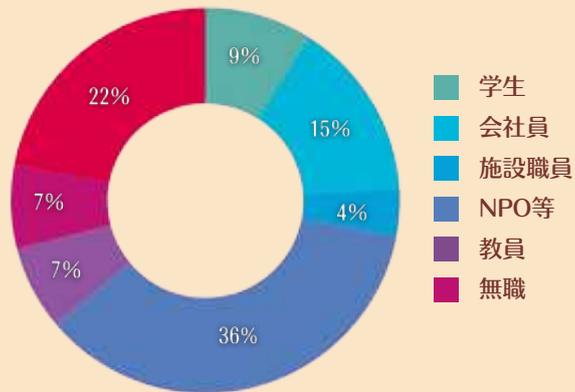
Q

あなたの年代を教えてください



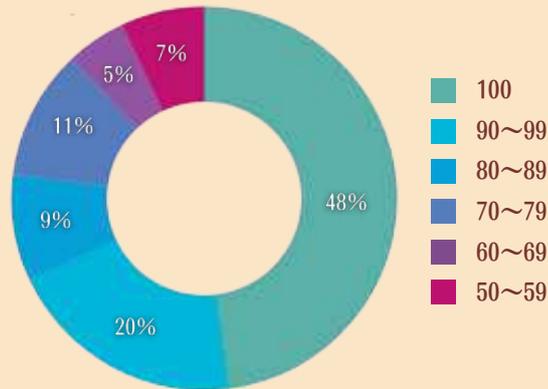
Q

あなたの属性を教えてください



Q

本日のイベントの満足度を教えてください



Q

## 「REAL VOICE」上映会に参加して、感じたこと

- A 私もサバイバーです。声をあげてくれてありがとう。
- A 虐待経験を振り返るといことはすごく身を削る思いだったのではないかと思います。私はまだまだ自分と向き合えないけれど、いつか虐待経験を糧にして強く生きれると、向き合おうとしている今が大切な時間だと思えました。
- A 色々な虐待、環境がある。ここまで酷いことが起きていたのか、と身につまされました。社会がもっとこういったことに目を向けるべきではないか。関わることによって守れるものが少しでも増えていけば、と思います。
- A 自分も同じ経験をしていて、30代になってもその傷はなくなっていないませんが、この機会に見れて良かった。
- A 「知る」ことができました。「できること」にすすんでいきたいと思いました。ありがとうございます。

# ひろしま・おかやま 若者おうえん基金の取り組み

寄付総額 **972,000** 円 (寄付者の人数: 69名)

ありがとうございました



## クラウドファンディングの取り組み

首都圏若者サポートネットワークによる「若者おうえん基金」の合同クラウドファンディングに参加し、全国からたくさんのご支援をいただくことができました。ありがとうございました。

皆様からいただいたご寄付を原資として、広島県・岡山県で若者をサポートしている4団体に助成をおこないました。初年度ということで、少数団体の助成に留まったため、残りの寄付金は次年度以降本格的に助成を開始した際、使用させていただきます。

## 助成団体の 活動紹介



### 助成 団体名

一般社団法人  
**SGSG**

NPO法人  
**子どもシェルターモモ**

### 助成金の 使い道

誰でもこれる  
「平日昼間のユース食堂」の開設

- ・児童養護施設等の卒業生への記念品購入
- ・社会的養護を巣立った若者へ宅配するお弁当にかかる消耗品の購入

### 助成金を 活用して 得たこと

ユース食堂の取り組みは「すでに目に見えている何らかの困難の解決」ではなく、食事を通じて自分たちの居場所をつくることで、ユース世代のホンネを引き出すことにあります。このホンネを丁寧に受け止めると、「何らかの困り感」が見えることがあります。その後、ユースワーカーが対象者の困り感が自己解決できるものなのか、何らかの支援や他に繋ぐことが必要なのかを判断していく流れを作ることができました。

- ・児童養護施設の卒業生に直接会うことで、実際にアフターケアの場所に来てもらいやすくなるのではという期待と可能性が見えました。
- ・施設の先生方や、すでにつながっている人とも更に丁寧に関わる機会となりました。
- ・アフターケア活動の目玉でもあるお弁当のお渡しについては、希望者も増えていたため、食材やお弁当箱などの消耗品を買わせていただけ、大変助かりました。

### そのほか 取り組みへの メッセージ

予防的活動はなかなか短期的な成果が見えにくいですが、このような活動も助成対象に選んでいただき、大変助かりました。

活動と費用を振り返ることで、予算建てと、費用の規模を知ることの大切さに今更ながら気づかせていただきました。



### 助成金総額

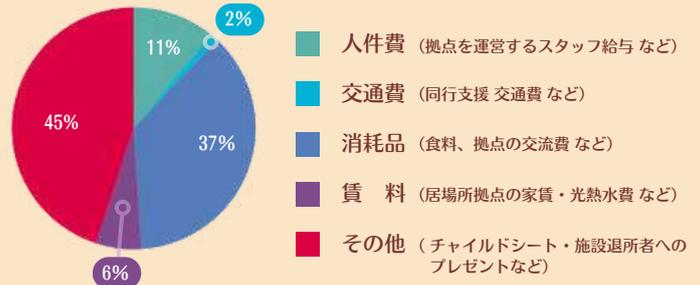
350,000円 (100,000円×3団体、50,000円×1団体)

### 支援を届けた若者

実数 **239** 名 延べ数 **628** 名

※4団体合計、2024年1/1～3/31に助成事業を通して関わった若者の数

### 2023年 ひろしまおかやま若者おうえん基金 利用内訳



### 助成団体名

### NPO法人 学習支援ヴァパウス

### NPO法人 未来へ

### 助成金の 使い道

- ・ヴァパウスを利用する若者が自由に過ごせる場の運営
- ・ヴァパウスを利用する若者に夕飯を提供し、全員で食事をする機会

- ・社会的養護を巣立った若者が一人暮らし体験を実施するための施設の設備充実
- ・社会的養護を巣立った若者を対象としたディナー会

### 助成金を 活用して 得たこと

この活動を通して、子どもたち同士の情報交換や共有、スタッフの気づきからアドバイスができ、高校卒業後の進路の決定にも寄与しました

来年度の夏休み期間に一人暮らし体験が実施できるよう、該当地域の児童養護施設等に募集を行う予定です。また、コロナ感染症で停止していたディナー会を久しぶりに実施しました。料理も手作りをして、食べてもらい、楽しく交流できました。

### そのほか 取り組みへの メッセージ

困難な状況にある子どもたちがひとりで解決できないことを、地域や周りの支援でできることもあります。この基金がそうした支援のために存続いただくことを切に希望します。

備品の購入やここ数年できていなかったディナー会を実施することができました。Zoomでの他団体の方との交流も、とてもいい機会になりました。

# 若者を支援する団体の 取り組みサポート

## 団体交流会を開催しました

日時	令和6年2月9日(木)10:00~12:00 @ オンライン(ZOOM)
参加団体	広島県、岡山県を中心に若者と関わる活動をする6団体 ●一般社団法人 SGSG ●NPO法人どりいむスイッチ ●NPO法人 未来へ ●放課後スペース INBase ●NPO法人子どもシェルターモモ ●福山市立大学 野口啓示さん ●認定NPO法人とりで (オブザーバー)



### 交流会の感想



助成団体の活動報告を中心に、自団体で悩んでいる事やこれから取り組んでいきたいことなどの質問がありました。出てきた質問や意見は、どれも支援団体共通の課題で、「うちではこうしていますよ」「その考え方は参考にします！」など、それぞれの団体の活動をイメージしながら活発な意見交換がなされました。

### 交流会で出た質問 (一部抜粋)



- Q 他の団体との情報共有はどうしてる？
- Q 「居場所」で過ごしている時に、メンバー間でトラブルが起こったらどう対応する？
- Q 「居場所のルール」はある？
- Q 助成金や寄付金など、どう活動資金を集めている？

## 団体の現状と課題を知るためのインタビューを実施しました



### インタビュー団体

- NPO法人子どもシェルターモモ ●一般社団法人SGSG ●NPO法人学習支援ヴァパウス ●NPO法人 未来へ
- ユースセンターズオノミチ ●STUily ●認定NPO法人とりで

### インタビュー項目 (一部抜粋)

あなたの団体には、若者はどのように繋がってきますか？



- A 大人からの紹介  
施設や学校の先生、行政職員、近所の人など
- A 友達に誘われて
- A ネット (SNSなどで検索して)
- A 学校にチラシが配布されて
- A 団体のイベントに参加

あなたの団体では、若者はどんなことに困っていて、どんな支援をしていますか？



- A 困りごと  
妊娠、仕事、不登校、ひきこもり、SNSトラブル  
食べるものがない、金銭管理、家族関係
- A 困りごとベースではない  
話を聞いてくれる存在を欲しているような接し方  
何かやりたい、時間をつぶしたい
- A 行っている支援  
個別相談、出張相談、同行支援、居場所  
食糧支援、イベントの開催

あなたの団体のレポートとして必要なことを教えてください



- A リアルな情報交換  
若者の受け入れに理解のある職場・不動産  
支援機関の情報など
- A 支援者育成  
若者と関わるうえでのマインドやノウハウ  
メンタルケア、人事交流、支援者の相談
- A お金  
運営、広報、支援のための資金
- A 若者と出会うための広報

# おわりに

誰かから受け取った恩を  
次の世代へと送る  
そんなことがあたりまえの社会へ

NPO法人どりいむスイッチ  
理事長 中村 友紀



ひろしま・おかやま若者サポートネットワークを立ち上げよう。そう私たちが考えたのは、肌感として、広島県や岡山県で若者を支える仲間とのつながりが薄いと感じたからです。困った時にパスを出し合える多様な仲間を必要としていました。

社会的養護を巣立った若者のことを「ケアリーバー」と言います。私たちは彼らを支える活動を8年続けていますが、「今日帰る家が無い」と若者から突然連絡が入ってきたことが何回かありました。安心して寝ることができる場所を一緒に探して途方に暮れたこともあれば、わずかなつながりをたどり、何とか受け入れてもらえたこともありました。つながりのありがたさが身にしみる体験でした。

なぜ、安心して眠れる家が無く、今日食べるものも無いということが、今の日本で起きるのだろうと憤りを感じることもありましたが、そんなケアリーバー支援を通して、これは若者の問題というより、若者の声を拾い上げることができない社会の問題だと感じるようになりました。そこには、私たち大人の意識が大きく関係しているように思います。知ろうとしなければ彼らの存在は見え、さまざまな若者の心の声は聴こえないのです。

そんな私たちも、かつては若者でした。何かしんどい気持ちを抱えたことはなかったでしょうか。そんな時、誰が側にいてくれたでしょう。または、どんな大人が側にいてくれたらありがたかったでしょうか。

今の日本においては「若者」というだけでマイノリティーです。逆に言えば、未来を共につくる貴重な存在です。そんな彼らをひとりにせず、何を提供できるのかを、共に考える仲間がほしい。このネットワークの中心にある想いです。みなさんに、さまざまな形で参画していただくと嬉しく思います。



## お問合せ先

ひろしま・おかやま若者サポートネットワーク  
事務局：NPO法人どりいむスイッチ

TEL：084-983-1488

MAIL：[wakasapo@dreamswitch.or.jp](mailto:wakasapo@dreamswitch.or.jp)

